

キプロス通信 Vol.13

下野市は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会におけるキプロス共和国のホストタウンです。

～カラ・フリストゥーゲンナ！～ Καλά Χριστούγεννα

日本でのクリスマスは12月24日と25日に盛り上がりを見せますが、ヨーロッパのクリスマス休暇は、クリスマスイブから1月6日までとなっています。

キプロスでは、1月1日の聖バシレの日に、新しい年の幸せを願って「ヴァシロピタ」というケーキを食べます。

伝統的なヴァシロピタは、シンプルなケーキの中にコインを1枚入れて焼き上げます。教会から戻ったら家の主人が切り分け、最初の1切れはイエス・キリストに、2切れ目は聖マリアに、それから子どもたちに分け、最後の1切れが家の主人の分となります。手にしたケーキにコインが見つかった人は、幸福な1年を過ごせるとか。日本人が初詣におみくじを引くのと似た、伝統的な習慣です（同様の習慣に、フランスのガレット・デ・ロワなどがあります）。

ヴァシロピタという名前は、福祉事業に貢献した聖人ヴァシリスが、貧しい子どもたちにコイン入りのケーキをプレゼントしていたことに由来します。

1月6日には、イエス・キリストの洗礼を祝う祭り「神現祭（キプロスではエピファニー）」がクリスマス休暇を締めくくります。司祭が投げ入れた十字架を追って男性たちが冬の冷たい海に飛び込み、競って拾い上げます（タイトル写真参照）。手にした男性には、神のご加護が与えられるそうです。

また、この日には「ルクマデス」というドーナツに似た揚げ菓子を食べる習慣もあります。

所変われど、新年に馳せる想いは同じ。今年は穏やかな1年でありますように。



写真提供：KNOSSOS TRAVEL

日本郵便株式会社主催

「ホストタウン相手国・地域へお手紙を送ろう！」で感謝状をいただきました

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において、子どもたちのオリンピック・パラリンピックへの機運醸成や英語教育、国際感覚の醸成のため、「ホストタウン相手国・地域へお手紙を送ろう！」



12月2日に行われた感謝状贈呈式の様子

に市内小中学校から約1,300人が参加しました。

このたび、日本郵便株式会社関東支社管内（千葉県・埼玉県・茨城県・群馬県・栃木県）で、参加者数上位10市町村が表彰されることになり、第3位となった本市に感謝状が贈呈されました。

キプロス共和国の母国語であるギリシャ語で書かれたものや、歌舞伎などの日本文化の絵が描かれたもの——参加者の児童生徒の皆さんは、様々なお手紙を書いてくれました。1人ひとりの想いが詰まったお手紙は、キプロスオリンピック・パラリンピック委員会にお送りしました。

この感謝状は、参加してくださった皆さまのもので、本当にありがとうございました！！